

平成28年度

市政モニターアンケート調査結果
【長崎市よかまちづくり基本条例について】



長 崎 市
都市経営室

1. 調査の目的

平成 27 年 12 月 1 日からスタートした「長崎市よかまちづくり基本条例」を、1 人でも多くの市民のかたにこの条例を知っていただき、一人ひとりが「長崎のまちをつくるプレーヤー」として、みんなが力を出し合う、まちづくりに取り組んでいただきたいと思います。

今回の調査結果を受け、今後の条例の周知方法や、条例を活用した取り組みの検討に生かすことを目的としています。

2. 調査の概要

調査期間：平成 28 年 12 月 15 日 ～ 平成 28 年 12 月 28 日

送付数：217 人（郵送モニター 174 人 インターネットモニター 43 人）

回答率：76.5%（166 人）

（郵送モニター 148 人 インターネットモニター 18 人）

3. 調査結果

「長崎市よかまちづくり基本条例」がスタートしてからの 1 年間で、シンポジウムの開催や、広報紙などでの周知活動も行ってきましたが、いまだ認知度が低い状況です。「よかまち長崎」をつくるための第一歩として、この条例をたくさんの方々に知っていただきたいので、今後も周知を強化していく必要があります。

一方、今年度開催した「小学生によるまちづくりアイデアコンテスト」では、予想を上回る応募があったことから、子どもたちが「まちづくり」を知るきっかけとしては、有効であると思われます。

そして、「取り組み内容によっては一緒に活動したい」というかたも含めて、8 割を超えるかたから、まちづくりの活動に子どもたちと「一緒に参加したい」という回答をいただきました。今後、「長崎市よかまちづくり基本条例」の周知も含め、多くの市民の皆さまとまちづくりを進めていくためには、子どもたちの力が必要であることがよく分かりました。

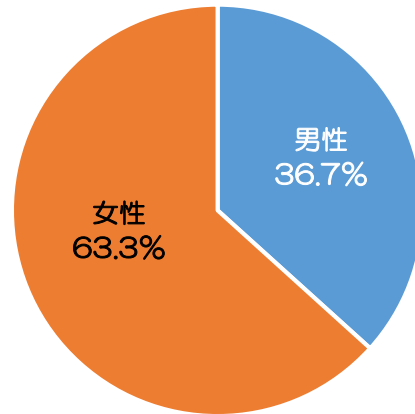
4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100 パーセントに合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が 100 パーセントを上回る場合があります。

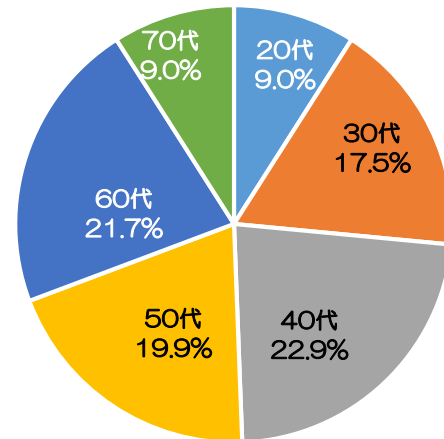
問1 あなたの性別をお答えください。

| 選択肢 | 回答者数 | 割合 |
|-----|------|--------|
| 男性 | 61人 | 36.7% |
| 女性 | 105人 | 63.3% |
| 合計 | 166人 | 100.0% |



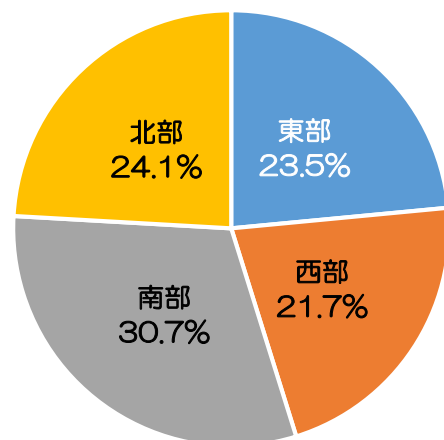
問2 あなたの年齢を選択してください。

| 選択肢 | 回答者数 | 割合 |
|-----|------|--------|
| 20代 | 15人 | 9.0% |
| 30代 | 29人 | 17.5% |
| 40代 | 38人 | 22.9% |
| 50代 | 33人 | 19.9% |
| 60代 | 36人 | 21.7% |
| 70代 | 15人 | 9.0% |
| 合計 | 166人 | 100.0% |



問3 お住まいの町名を教えてください。

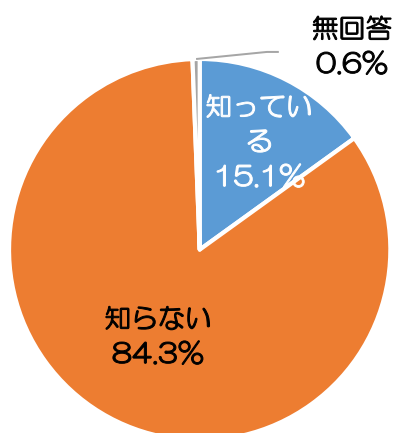
| 選択肢 | 回答者数 | 割合 |
|-----|------|--------|
| 東部 | 39人 | 23.5% |
| 西部 | 36人 | 21.7% |
| 南部 | 51人 | 30.7% |
| 北部 | 40人 | 24.1% |
| 合計 | 166人 | 100.0% |



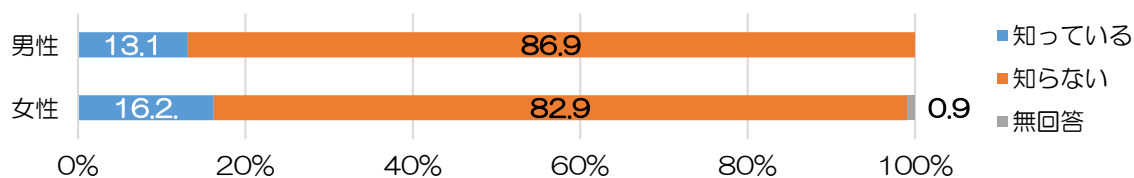
※ご記入いただいた町名をもとに東西南北に分けて集計しています。

問 16 まちづくりの基本的なルールや役割分担を定めた「長崎市よかまちづくり基本条例」（以下「条例」と記載します。）をご存知ですか。（必須）

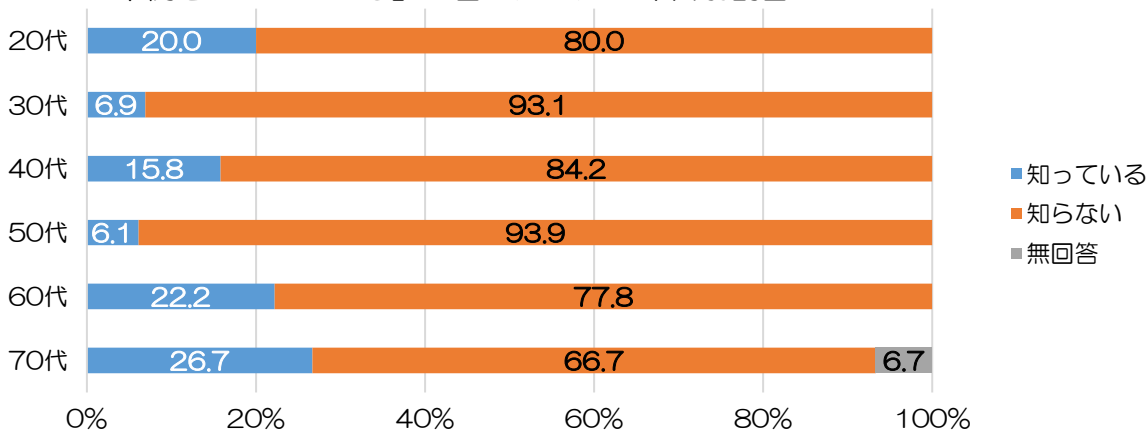
| 選択肢 | 回答者数 | 割合 |
|-------|-------|--------|
| 知っている | 25 人 | 15.1% |
| 知らない | 140 人 | 84.3% |
| 無回答 | 1 人 | 0.6% |
| 合計 | 166 人 | 100.0% |



<条例を「知っている」と答えたかたの性別割合>



<条例を「知っている」と答えたかたの年代別割合>



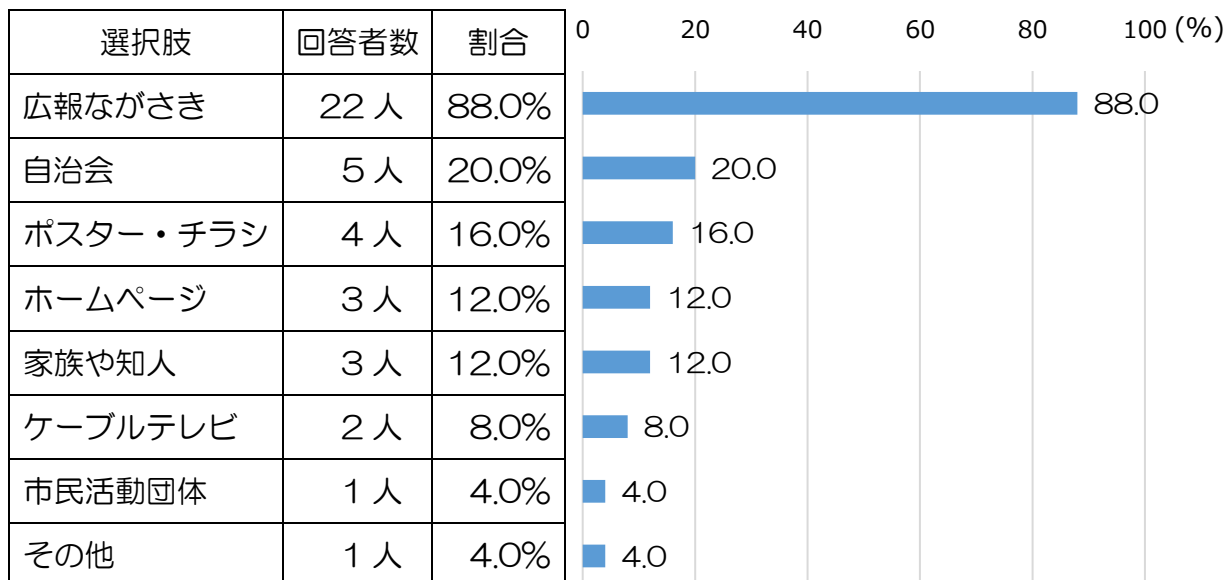
条例を「知っている」と答えたかたの割合は、15.1 パーセントで、平成 27 年度の調査と比べると 24.2 ポイント減少しました。

年代別では、特に 30 代、50 代の割合が低くなりました。若年層への周知は従来から課題と認識しており、小学生向けのリーフレットを作成・配布したり、「小学生によるまちづくりアイデアコンテスト」を開催したりするなど、親の世代への周知を含めて子どもたちへの周知を試みましたが、改めて、市民の皆さまへの周知の必要性を痛感する結果となりました。

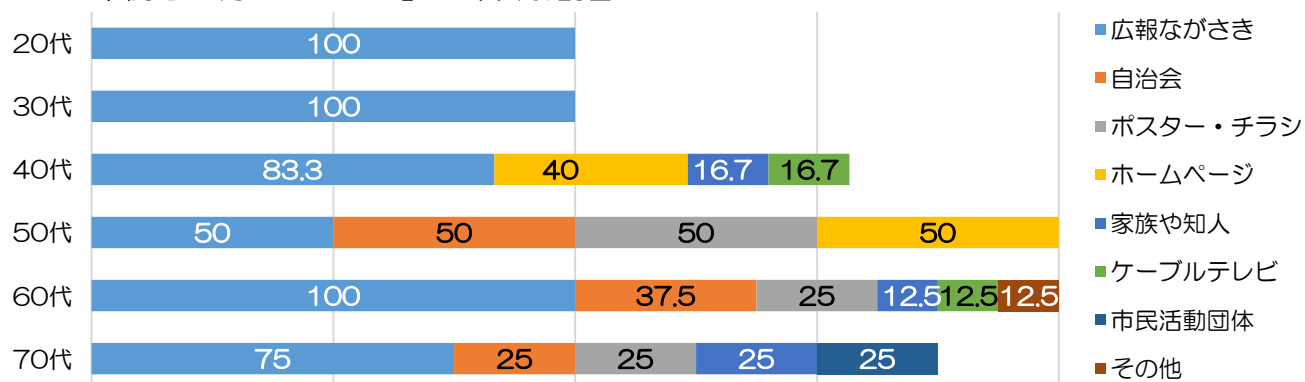
問 17 問 16で「知っている」と回答したかたにお尋ねします。

「長崎市よかまちづくり基本条例」を何でお知りになりましたか。

【複数回答可】(必須)



<条例を「何で知ったか」の年代別割合>



条例を知った媒体としては、「広報ながさき」の割合が大きく、「広報ながさき」は50代を除いた全ての年代で、70パーセント以上となっています。

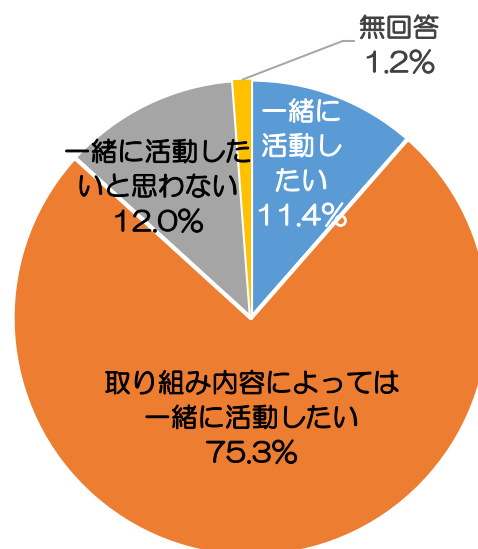
また、50代以上は「自治会」や「ポスター・チラシ」で知ったかたが目立ち、自治会への働きかけは有効であると思われます。

一方、インターネットを多く利用すると思われる20代、30代では、「ホームページ」で知ったかたがないという想定外の結果になりました。

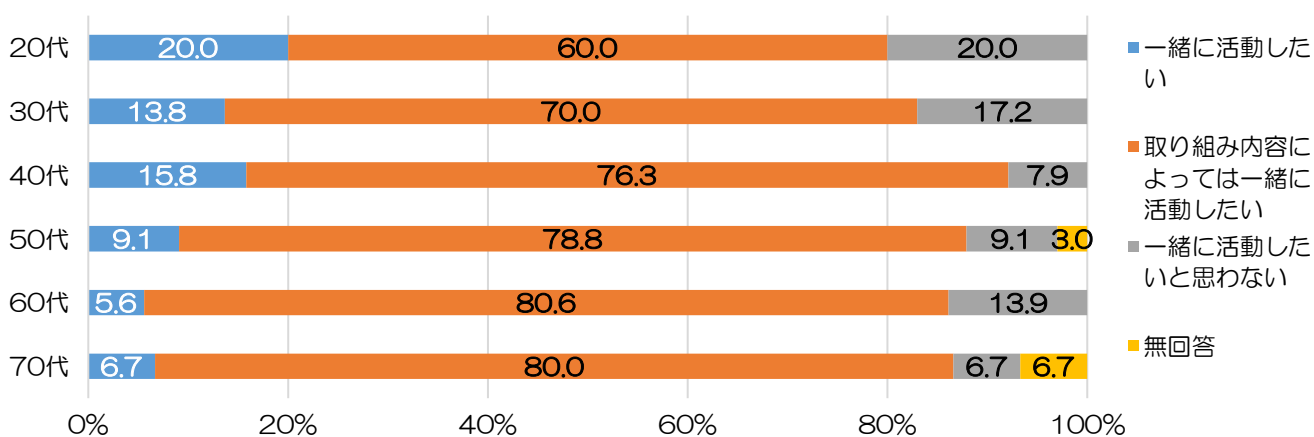
今後は、今までの周知活動に加えて、インターネットでの周知をより強化し、若年層への周知の強化に努めます。

問 18 アンケートに同封している「ながさきまちづくりノート」は、条例を小学生に分かりやすく解説したリーフレットです。今年度、市内の小学校6年生全員に配布しました。あなたのお子さんや、近所子どもなどから「まちづくり」の取り組みに誘われたら、一緒に活動したいと思いますか（必須）

| 選択肢 | 回答者数 | 割合 |
|---------------------|------|--------|
| 一緒に活動したい | 19人 | 11.4% |
| 取り組み内容によっては一緒に活動したい | 125人 | 75.3% |
| 一緒に活動したいと思わない | 20人 | 12.0% |
| 無回答 | 2人 | 1.2% |
| 合計 | 166人 | 100.0% |



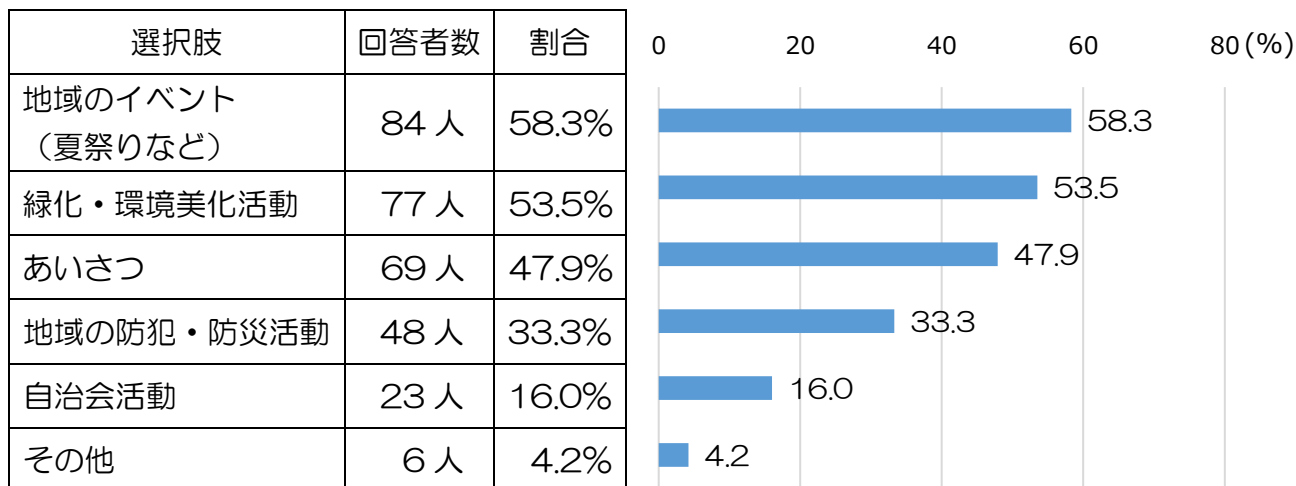
＜子どもたちと「一緒に活動したい」と答えたかたの年代別割合＞



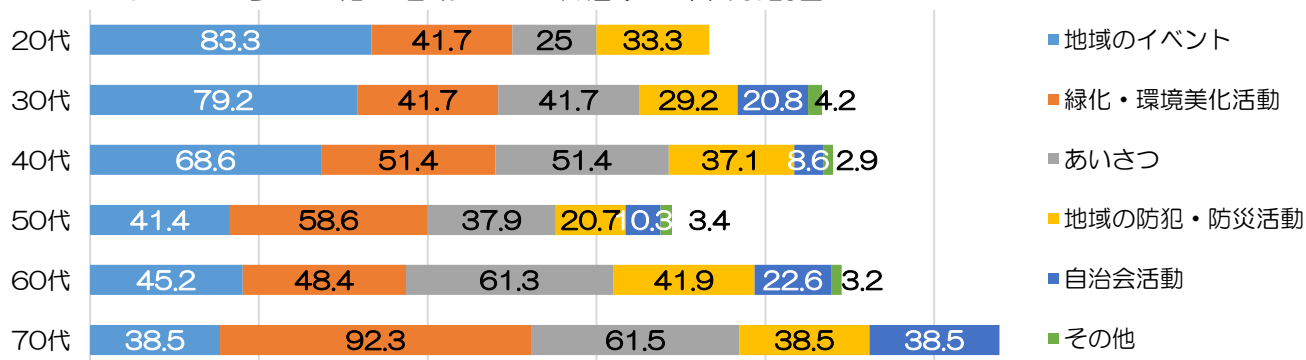
全世代とも「一緒に活動したい」「取り組み内容によっては一緒に活動したい」の合計が80パーセントを超え、特に20代から40代の子育て世代は、取り組み内容にかかわらず、子どもたちと「一緒に活動したい」との回答割合が、他の世代と比較して高くなりました。

子どもたちと一緒に、まちづくりの活動に大人の皆さまに参加してもらうことは、大きな負担なくまちづくり活動を行うことができ、かつ、子どもたちのまちづくりへの参加意欲の醸成も図られるので、子どもたちへのまちづくり活動参加の働きかけは、有効であると考えられます。

問 19 問 18 で「一緒に活動したい」「取り組み内容によっては一緒に活動したい」と回答したかたにお尋ねします。どのような取り組みで一緒に活動したいですか。【複数回答可】（必須）



<子どもたちと一緒に活動したい取組みの年代別割合>



【主なその他の取り組み】

- ・通学の見守り等
- ・認知症ケア
- ・社会資源の発掘とコミュニティーの活性化
- ・どのような取り組みでもいいが、仕事の時間の都合が合うものであれば参加したい

40代以下の子育て世代では、「地域のイベント参加」の割合が高く、50代以上の世代では、「緑化・環境美化活動」や「あいさつ」の割合が高くなりました。

問 20 長崎の未来を担う子どもたちに、「まちづくり」に興味を持ってもらうためのアイデアがあれば、ご記入ください。

(例)「まちづくり」のアイデアコンテストを行う。

●地域活動

(交流)

- ・自分が住んでいるまちの好きなところ(場所)、良いところ、こうあるのもっとよくなるのでは、といった意見・考えを大人と子ども(子どもたちを中心)と一緒に話し合う機会があるといい思います。
- ・お年寄りと子どもたちの交流する場を設ける。
- ・自治会・老人会等の地域との交流を深めること。高齢化が進みイベント等が縮小されているのでは。
- ・お年寄りの交流。一緒に美化活動、地域運動。
- ・まず、ご近所とのお付き合いをしっかりと。あいさつはもちろん、イベントでいえば、地域の小さなお祭り等を大事にしていく。今住んでいる町が、いつもきれいで楽しく、「暮らして良かった」と思えるような点から考えるのが重要。収益など経済を優先した「まちづくり」では立ちいかななくなっている。
- ・例で挙げている案はいいと思います。各学校で行い、地域のかたにも選定に参加してもらうことで、子ども・大人・地域がつながるのではないのでしょうか。
- ・自治会等で行われているさまざまな行事に、子どもたちが1人でも多く参加すること(夏祭りや、もちつき大会など)。親子で参加して、地域の人たちとの交流をもつことが大事だと思います。

(環境美化)

- ・一日一善の心遣い!!を持つ。道路ではスイガラや小さいゴミなどを拾って下さい。
- ・教員と生徒で、地域の公園内の清掃を全員で年に2回以上実施し、「空き缶、ゴミ、トイレ、雑草、らくがき消し、砂場のフンなど」美化意識を身に付ける。
- ・緑化・環境美化活動としてのそうじ等。
- ・地域清掃や緑化活動。
- ・植育大会(木花を年3~4回植える)。継ぎはぎだらけの道路をキレイにする。

●教育・体験

- ・いろいろな場所で職業体験。
- ・長崎=観光都市です。外国人も多いので、長崎として、英語力を小さいうちから強化するカリキュラムを導入してはどうでしょうか(まちづくりとはちょっと遠いですが)。「観光のまち」の意識付けをすることにより、外からどうみられ

るか、良くしていこうという気持ちが湧くと思います（アイデアとして課外授業をもっと取り入れるとか、観光地を知る）。

- ・自分の学校区内の、自分が住んでいる町以外にも足を延ばしてみる。そして、それぞれの歴史・いわれなどを学ぶ。市内のバス線路図を使い、目的地を決めて実際に行ってみる。途中通過するバス停を書き留めていき、どの町がどの辺にあるか学ぶ。

- ・市役所の仕事一日体験。

- ・学校の授業に取り入れる。

- ・「ながさきまちづくりノート」拝見しました。とてもいい提案と自治会等の活動も紹介しており、これからを担う子どもたちへの素敵なプレゼントだと思います。他は思いつきません。

- ・観光名所や博物館、歴史的史跡での課外授業。まちづくりに携わるかた（役所のかたなど）による公開授業。

- ・「長崎検定」を道徳などで学習するなど、長崎のことを知る学習をする機会を設ける。

- ・学校でまちづくりの件をもっと話題に挙げる。

- ・遠足は稲佐山ばかり行かずに、町（街）あるきをすれば良いと思います。立山の防空壕なども子どもたちに知ってほしいところです。最近、私も歩き始めましたが、発見することばかりです。新たな感動！！子どもたちも（もう30代ですが）春・秋の遠足全部稲佐山でした。1クラスずつの少人数でも良いから、いろんなところに行かせてやってください。社会勉強として大切です。もの作り（長崎なら特産品など）歴史探策。

- ・どのような長崎で暮らしていきたいか、図工の時間などに絵画を描いたりすること。

- ・自分の住むまちがどんな特徴を持っているかなど、魅力や短所を知らなければ具体的に興味も湧かない。自ら歩いて調べるような学習をしてもらうことから始めてはどうか。

- ・まず、子どもたちが自分の町を知るために、体験を多くやる。新聞や広報ながさきなどに多く掲載。親などは自分の子どもが掲載されたら、ものを取って見るという行動をする。まず、触れる機会を与える。

●行事・イベント

- ・地元文化財になるような祭りがある（平山の大名行列）。子どもたちに参加できるように……。クラブ（野球・サッカー）・塾等で参加できない。祭りの当日（日曜日・祭日）に試合等がある。

- ・子どもさるくの実施。長崎の街を歩きながら、長崎の良さを体感してほしい！

- ・昔あそび（こま、ぺちゃ、あやとり、けん玉）大会。公園での制限が多すぎる……

公園あそび大会。サイクリング。

・自治会活動の中に、子どもたちの興味のあるイベントを企画しながら、子どもたちの企画意識を高め、まちづくりにも発想の意識を醸成してもらう。

・自治会主催スポーツ大会等。

・ラジオ体操を活発化する。

・もっと子どもが中心となれるようなイベントを企画してほしい。

・「まちづくり」参加スタンプラリー等。

・「まちづくり」のイベントなどに参加するとポイントがもらえて、年間の参加率が高い人には、表彰や記念品など形が残るものを渡すなど。

・ポイントだったり、ゲーム的要素を取り込む。

・地域のイベントで、子どもたちが催し物を考えて披露する時間を設ける。

・他の市、他県のまちづくりを知る機会を持つ。自分の家のまわりの“お気に入り”写真コンテストを行う。

●広報・周知

・子どもがテレビを見る時間帯（アニメや教育番組等）にテレビで流す。祭りなどのイベント時に宣伝する。

・今行っているまちづくり活動の告知。

●福祉

・子どもたちに手話を覚えてほしい。障害者たちとあいさつし、交流が出来ると思います。

・私は福祉の仕事をしているので・・・住んでいる町の福祉サービス（高齢者・障害者・児童など）を知ってもらう合同イベントを開いてほしいです。意外と他のサービス（高齢サービス従事者だと障害を）を知らない人も多いので、子どものうちから幅広く興味を持ってほしいなと思います。

●観光

・せっかく世界遺産になったものがたくさんあるのだから、そういう施設の入場料をなくして、どんどん利用して歴史を知ってもらえたら、県外の方にも発信してもらえるのではないかと思う。

・観光客、特に外国人と接する機会（私を含め苦手意識あり）を増やしてほしい。誰もが、これからは道案内やトイレを教えたり、写真を撮ってあげるなど、外国人に優しい長崎にしてほしい。三菱などでもいろいろな国から来ている。さるくサポーターのお手伝い体験など、英語を聞いてハグ・握手でコミュニケーション。地域の公民館などで英会話教室など、あいさつや道案内できるくらいは無料であるといいなと思います（夏休み体験など）。自転車レンタルも増やしてほしい。

●複数の分野

- ・海岸の清掃活動（ゴミやペットボトルなどを拾う）。その際、貝がらや流木を使ったアートや小物作り。長崎特産品の生産現場の見学や体験ができる取り組み。
- ・公園の美化への参加。花壇に子どもスペースを設ける。近くにはこういった施設があり、どのような方々の利用があるか興味を持ってもらう（ふれあいセンター・老人ホーム他）。自治体の「まちづくり」の活動等、まず知ることから参加へとつながる。
- ・学校教育の一貫として授業に取り入れる。卒業記念植樹を街路樹にすると、成長をいつまでも見ることができる。ゴミ処理場の見学。イルミネーションアイデアコンテストを行い、取り付けに参加させる。
- ・公民館でのイベントを増やす。職場体験を定期的に行う。
- ・小物作り。校庭の草とり。
- ・町のあちこちに花を植える。「まちづくり」のポスターを描いてもらい、人の集まる場所に展示する。

●その他

- ・横断歩道に立ち、歩いている人に信号を守るように指導する。意識付けしてもらうことにより、交通ルールを守るようになる。
- ・他県等の活動例を参考にする。自分の周りに（年齢や家族構成を含めて）どんな人がいるか知ってもらう。あいさつや他人の家（庭）に入るといった距離を考えるともらう。（小学生が大声で塀を乗り越えて庭を走り回るので。）
- ・子どもたち（中学生まで）の医療費をただにするぐらいの市政を期待します。子どもたちに安心を届けることになり、いいのでは？
- ・新市役所の模型、新幹線、従来線など長崎駅近郊、新県庁、県警などを形にして、市役所内に設置して子どもに夢をみせる。
- ・自治体の子供会活動を活発化させるための資金補助金制度を。各自治会に子ども会を作らせて、地域のイベントの進行を考えさせる。
- ・今住んでいる地域のいいところさがし。
- ・学校と長崎の何かのメーカーがコラボレーションをし、新商品を出す。
- ・有名人講義（例えば：尾木先生、池上先生、伝次郎先生、吉村先生）
- ・地元のまちの自慢できるもの、自慢できる景色、人気者の絵等を絵とか写真で紹介する。
- ・食に関するもの（長崎はおいしい素材が多いので）。
- ・メニューを1品提出して、そのメニューを、用意してあるいろんな材料を使って作るコンテスト（県産品のみの材料で）。

- 子どものための児童館（時津中央児童館のような）がほしい。
- 他の町や市の生徒と、自分の町について紹介し合う場を設ける。
- 社会資源を再確認し、例えば、地震が起きたとき、避難ルートは確保できるか、道幅や、また、高齢化社会を迎えるにあたり、これは、不自由だなと考えられること（地形）などを見直す。
- 参加したまちづくりの項目毎にピンバッチなどを渡して表彰し、良い行いをすることに対してモチベーションを上げる。
- まちづくりについての標語を子どもたちから募集して、通学路などに掲示する。